

法人（事業所）理念		「未来へつながる足場掛け（Scaffolding）」子どもが、社会の中で生きていくために必要な様々な力をつけ、夢を描ける未来へ繋げることが、我々の使命だと考えています。 専門計画：「認知機能アップ」「感覚統合」「社会面・対人スキルアップ」を療育の3本柱として実施。 協働：保護者が子どもの特性を理解して受容し、親子関係の改善を促進させて、子どもの環境調整のために社会に働きかけるエンパワメントを持てるようサポートする。 連携：保護者、学校園、専門機関と連携し、子ども支援のネットワーク構築を目指す。		
支援方針		療育の主旨：アセスメントにより、特性の明確化した上で、特性を踏まえた段階的療育を実施する。多角的なアプローチにより、発達の凸凹を整える。 療育の目標： ①苦手意識を感じさせずに学習の基盤を作る ②できた体験を重ねる中で自己効力感を育む ③社会と関わる練習を通して、子ども自身の特性理解を促すとともに、問題解決力を育む ④人への信頼感を育む ・保護者へは、ペアプロをはじめとした子どもとの関係性改善のためのアプローチ、兄弟児のケアも行う。 ・心理士、作業療法士等、多領域のスーパーバイザーによる指導を受け、専門性を担保する。		
営業時間		10：00から17：30まで	送迎	あり
本人支援	領域	支援内容		
	健康・生活	①健康状態の維持・改善：到着時の検温や視診、活動中の変化についても心配りをし、健康状態の把握に努める。 ②生活リズムや生活習慣の確立：身辺整理の自立に向けて、丁寧な関わりをしつつ、目的的に取り組めるよう工夫をする。 ③可能な範囲で、定時の排泄を促す。		
	運動・感覚	①感覚統合療法：身体活動を通して、5感2覚の感覚＋肯定的な感情「楽しい！」＋意欲「やってみたい！」をセットにして入力（インプット）することで、脳へ働きかけて神経回路を繋げて行く。次第に、感覚からの情報を、正しく受け取って処理することが可能となることを目指す。		
	認知・行動	①発達段階に応じた認知機能アップの課題を実施：（（）内は機能アップが期待される能力を示す） ・構成課題（視空間処理能力）・ワーキングメモリー課題 ・数の概念形成 ・マッチング課題（注意力・比較力・類推思考→判断力・多角的視点） ・巧緻性課題（不器用さの改善） 具体的に操作する段階から徐々に抽象的な思考へ進めるよう支援する。 ②外部環境及び対象の適切な認知と行動の取得： ・スケジュールや時間（タイムタイマー）の視覚化（時間(時計)の概念形成)		
	言語・コミュニケーション	①子どもの遊びに寄り添い、子どもの行動を言語化していくことによって(言葉のモデルを与え、語彙が増加)(発話につながる)、やり取りが生まれてくる。信頼できる対象へは、伝えたい想いが動機づけとなって発話が増え、バーバルなコミュニケーションが活発となる。このように、よい信頼関係清から生じるコミュニケーションツールとしての言語発達を促進させることをねらいとする。		
	人間関係・社会性	①「言語領域①」を行うことにより子どもは、物(おもちゃ) 対 自分しかなかった自閉の世界から、対象(指導員)への気づきもたらされる。自分の興味をもってくれる対象に伝えたい想いから、行動や気持ちを表現するようになる（双方向的コミュニケーションへと発展） ②個別及びグループでのルールある遊びの中で、適度な自制心とアサーションを育む。		
家族支援		・保護者の困り事、子どもの障がい受容のプロセスに寄り添う、臨床心理士・公認心理師によるカウンセリング、ペアレントトレーニング、親子関係改善の心理療法（PCIT・親子相互交流療法）を行う。	移行支援	・進学先、移行先への情報提供やスムーズな移行のためのサポート
地域支援市域連携		・子ども園、保育園、幼稚園や学校との連携調整及びコンサルテーション。 ・併用事業所との連携調整及び支援方法についての情報共有。 ・医療機関との連携及び情報提供。	職員のスキルアップ	・臨床心理士・公認心理師、作業療法士等、多領域のスーパーバイザーによる指導を受け、専門性を担保する。 ・事業所単位でLD学会に登録し、職員全員が学会に参加して、最新の研究報告を入手できる環境を用意している。 ・上記以外にも、感覚統合療法セミナーなど、専門性の高い研修への参加を促す。
主な行事等		兄弟児プログラムとして、映画会、プログラミングなど企画予定。		